

# 雲南市立病院の紹介



ホームページ <http://unnan-hp.jp/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/unnan.city.hospital>

## 当院の変遷

当院は昭和23年に雲南地域の北東部、大原郡大東町に、島根県農業会が岡山大学医学部の指導のもと「雲南共存病院」（50床）として誕生しました。以来60年以上にわたり高度経済成長、地域活性化、人口増加とともに増床を重ね、名称も公立雲南総合病院に変えながら一般、療養併せて344床の体制で雲南地域の二次医療を担ってきました。

順調であった歩みにも影が差し出したのは今世紀になってからでした。平成14年に診療報酬がマイナス改定されたことや、平成16年度の新臨床研修制度の導入により、医師派遣元の医局から大量の医師引き揚げが行われたことなどにより、経営環境は大きく悪化、平成19年度には構成市町からの新たな財政負担が生じるまでになり、地元紙では「雲南病院経営危機」というタイトルで大々的に報じられることになりました。

こうした中、平成の大合併により平成16年に雲南地域の構成10カ町村のうち、5町1村が合併して雲南市が誕生したこともあり、平成20年には、今回の合併に加わらなかった奥出雲町（2町合併）と飯南町（2町合併）から、病院事業組合からの脱退申し出がありました。合併しなかったそれぞれの町は独自に病院（奥出雲病院：158床、飯南病院：48床）を抱えており、公立雲南総合病院を支えるには財政的に困難な状況下にあったため、仕方のない事でありました。

時をほぼ同じくして総務省の公立病院改革ガイドラインが策定されたことも重なり、雲南市は有識者らによる「公立雲南総合病院あり方懇談会」を設け、数々の討議を行った末に、「市民が安心して生活していくためには地域医療の存在は不可欠であり、公立雲南総合病院の医療機能を存続させるため、一部事務組合を解散して、雲南市単独で経営する公立病院とする」との方針を示したのです。

こうした時代の変遷を経て、平成23年4月より、地方公営企業法全部適用に経営形態を変え、一般、療養281床の市立病院として再出発を遂げました。